

1. 基本情報

評価対象年度 (令和4 年度)

施策コード	131	施策名	人権尊重・平和の推進
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)	
まちづくりの基本目標	13	お互いを尊重し合うまち	
主担当部	地域振興部	主担当課	市民協働課

2. 施策の方向

10年後の姿	地域のなかで、人権尊重や平和希求の意識が広がり、年齢、性別、障害、国籍などに対する差別や偏見を持たない人たちが、互いに認めあい、助けあって暮らしています。		
施策の方向性	1	国籍や文化の違いを受け入れ、認め合う、多文化共生社会の実現をめざします	
	2	人権意識の啓発を進めます	
	3	平和について啓発し、平和を希求する意識の高揚を図ります	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和4年度決算額
市民相談事業	2	市民協働課	2,103
平和祈念事業	3	市民協働課	320
国際交流事業	1	市民協働課	133
文化活動振興事業	3	生涯学習スポーツ課	4,389
総事業費(施策の合計)			6,945

4. まちづくり指標

指標情報				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	国際交流事業の参加者数		目標値	900	1,000	800	800	800
	説明	—	単位 人	実績値	33(※1)	170			
	抽出方法	清瀬国際交流会報告書		達成率	3.7%	17.0%			
②	名称	この一年で戦争の恐ろしさや平和の大切さについて周りの人と話したり、考えたりしたことがある人の割合		目標値	48.0	48.0	60.0	60.0	60.0
	説明	—	単位 %	実績値	47.5(※2)	47.5(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	99.0%	99.0%			
③	名称	人権を身近なこととして意識している人の割合		目標値	50.0	50.0	60.0	60.0	60.0
	説明	—	単位 %	実績値	57.9(※2)	57.9(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	115.8%	115.8%			

※1 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による減と推測される。
 ※2 ②③抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和4年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	維持	コロナ禍において事業が縮小傾向にあった中でも工夫して取り組むことができた。市役所の市民交流スペースや協働ルーム前展示スペースを有効活用し、市民への啓発活動を行った。毎年似たようなものを展示している傾向になることが課題

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和4年度からの変更点	混迷が続くウクライナ情勢を背景に、平和の大切さについて、世代を超えて考える必要性が生じてきている。また、SNS上も含む人権侵害について、組織を横断した情報共有が求められている。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題 外国籍等、支援を求める方が市内にどのくらいいるか把握できていない。 課題に対する令和6年度以降の取組 国際交流会、社会福祉協議会、学校支援本部等、外国籍等の情報を共有しそれぞれが得意分野で支援できる体制の構築について検討する必要がある。
②	施策を進める上での課題 ピース・エンジェルズ事業に参加した後も平和祈念事業等に継続的に参加してもらうための仕組みがない。 課題に対する令和6年度以降の取組 ピース・エンジェルズ事業発表会(8月実施)後も平和祈念事業に参加できるよう、学校・地域等への周知・報告等を積極的にいき、多世代で平和について考える機運を高める。
③	施策を進める上での課題 人権施策における課題については、教育部、福祉子ども部など各所管においてさまざまであるが、複雑多様化する社会構造の中で、組織横断的な情報共有が必要となってきた。 課題に対する令和6年度以降の取組 組織横断的に情報共有ができる体制を構築する。